

◆ 伝統の「フォークダンス」 ◆

「さあ3年生、悔いのないように元気よく！ 高校最後のフォークダンスだ！」

I先生のかけ声がグラウンドに響いている。

雨天のため2回延期し、やっと開催できた体育祭もいよいよ大詰め。プログラムは、本校伝統の「フォークダンス」。



どんな経緯があったのかは定かではない。本校は2年後に創立50年を迎えるが、この「フォークダンス」は最初の体育祭からずっと続いていると聞いている。

“Oklahoma Mixer”, “Korobushka”, “Mayim Mayim”。ノスタルジックなメロディーに思わず目頭が熱くなる。

[先月の球技会](#)同様、体育祭を実施するにあたり、先生方には様々な検討をしていただいた。時間帯、種目、感染防止策について等々。結果、午前中はすべて新種目。なかには「フジシロ920hPa（ヘクトパスカル）」というユニークな名称の競技も。綱引きは、感染症対策のため1m間隔で綱をひく。そして伝統のフォークダンスは、マスク・手袋着用とした。

それでも、生徒の皆さんの歓声は生き生きとしていた。種目によってクラス縦割りの要素を入れているため、3年生の女子と1年生の男子が一

緒に走っていたりする微笑ましい場面にも遭遇する。そして各種目ごとに飛び交う応援。例えばリレーの際のクラスメイトのかけ声で、走っている選手はどれほど勇気づけられるか、そんな思いを一人でも多くの生徒の皆さんに経験してもらうことも、体育祭のような学校行事の大事な視点である。

フォークダンスの終わりを、柔らかな秋の日差しが彩る。「**藤高クオリティ**」の一端を示す圧巻のエピローグであった。

